

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 152 平成26年1月10日

発行 社会福祉法人 武蔵野会

本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

<http://www.musashinokai.jp/>

新年のごあいさつ



「公園清掃」
(白鳥福祉館)

トーク 伊豆大島

12月初めに大島の2施設の実践事例報告会に出席のため、島を訪れました。10月の台風の爪痕がまだ元町周辺には残っていました。濃い緑の木々の間に赤い椿の花びらが交じり、寒気の中でも陽光は明るくて、大島の素晴らしい風情は少しも変わっていませんでした。

多くの島民の方々が犠牲とされた今回の台風。武蔵野会の2施設は島の南部の高台にあり、都の建設局が作成していた土砂災害危険マップでも該当しておらず、施設そのものには特別な被害はありませんでしたが、元町地区に居住していた3名の職員が、ケガ等はなかったものの、お借りしていた家が土砂で埋まる等の被害がありました。

今回の台風で改めて確認できたことは、島の皆さんの優しさや連帯感の強さです。多くの皆さんが施設利用者の方々を案じてくださいました。1週間後の台風に備えては、町ご配慮により、自衛隊員の方も来てくださいました。

施設の職員も頑張り、被災した同僚職員の家の土砂のかき出しや荷物の持ち出しのために、即日みんなで駆けつけ、翌日からは他の民家の応援にも当たっています。何より頼もしかったのは、混乱した状況下でも、勤務のローテーションをしっかりと守り、利用者の方々の生活にやささかの影響も及ぼさなかったことです。法人他施設からも土嚢袋を2施設に送ったり、12月には島の民家の泥かき作業等のボランティアとして、多くの職員が訪島しています。

報告会では、塩づくりや乗馬、サイクリングなど、島ならではの日中活動の実践事例も出されました。これからも一層、島の皆さんとの絆を深めながら、愛され、お役に立つ施設として、2施設が島とともに歩んでいくことを願っています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 上野 純宏

新年挨拶

理事長 上野 純宏



昨年、長年の懸案であった評議員会の発足、法人創立50周年式典の開催など、大きな節目の年でした。小平福祉園の仮設移転もあり、児童学園やさくら学園、八王子福作など、大量施設整備時代の幕開けの年でもありました。

社会保障制度改革の推進の中で、社会福祉法人は、これまで以上の高い公益性の実現が求められます。組織の活性化や、ハード、ソフト面の対応、特に、利用者サービスの向上と、地域社会への一層の貢献が課題となります。

本年も、法人一丸となって努力いたしたく、皆さま方のご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

ご協力に感謝し
支援の輪を広げよう！

武蔵野会後援会 石谷 暢司

武蔵野会は、ただひたすらに福祉という険しい道を黙々と日夜歩み続け



村山 悦正
(元八王子市市民部長)



高橋 信夫
(法人本部長)



春日 完和
(元家庭裁判所首席調査官)



谷口 健吉
(税理士)



阿部 淳一
(世田谷区立駒沢生活実習所
利用者保護者)

て、51歳の新春を迎えました。その歩みに寄り添いながら、後援会は会員の皆様とたくさんの人々の善意のご

寄付や募金活動に、また使用済み切手、書き損じのハガキ、ベルマーク、インクカートリッジなどの収集や整理などの支援活動にご協力をいただき、感謝申し上げます。お陰様で後援会の趣意と支援活動に理解をいただき、支援の輪が広がっております。この支援の灯は絶えることなく、常に燃え続け、いばらの道を照らしながら、皆様とともに歩んでいきたいと思います。本年もよろしくご協力をお願いいたします。

法人役員紹介 (順不同)

【理事】



金森 仁
(弁護士)



青木 昌子
(元武蔵野会
合同家族会会長)



中島 通子
(練馬福祉園施設長)



廣本 肇
(社会福祉法人
つるかわ学園理事長)



青木 秀雄
(明星大学教授)



渡邊 瞭
(元エーザイ株式会社顧問)



今坂 康志
(医師・大泉病院副院長)



中村 文子
(NPO法人
東京都自閉症協会理事)



西野 榮男
(元八王子市社会福祉協議会
常務理事)



福山 雅史
(社会福祉法人
東京都社会福祉事業団
小山児童学園施設長)



松岡 利明
(西水元あやめ園施設長)



山田 貴美
(武蔵野児童学園施設長)

むさしの
武蔵野

癒えない悲しみ

先日、40年ぶりに学生時代の友人に会いました。彼女は東日本大震災の時に釜石に住んでいて、まともに被災し、彼女の家は、土台が残っているだけで、何にもなくなりました。そうです。

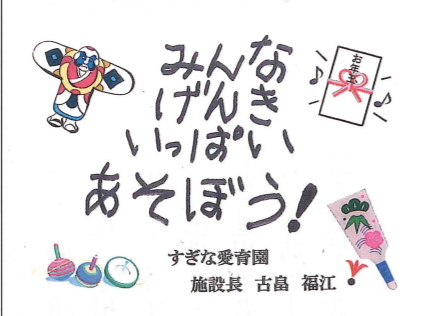
ご主人が単身赴任して一人住まいの彼女は、余震が続く中、飼い犬1頭を抱え、外へ出て、近所のお年寄り夫婦を無理に誘い、腕を引張りながら、避難所である神社に向かったそうです。途中で後ろから来た知り合いの車にご夫婦を押し込み、一人で走って、神社について後ろを振り返ると、津波が町を飲み込んでいたのが見え、この場所も危険かもしれないと思い、何人かで神社の裏山に、やぶの中を登って、助かったそうです。神社に先に着いて中にいた人たちは、襲ってきた津波に流れ一部亡くなった方もいて、無理やり連れてきたご近所のお年寄り夫婦も、亡くなったこと。津波が引いた後、自宅のあった場所へは、水浸し・泥沼・瓦礫状態で行けず、別の避難所へ向かう途中で、一軒の家が何人かの被災者の中へ入れてくれ食事を出してくれ、泊めてくれ、やっと我に返って、はじめて涙が出たそうです。その後、数日を避難所で過ごし、

ご主人と連絡が取れ、なんとか盛岡へ行くことができたそうです。周囲の人から慰めで、「家がなくなっても、飼っているペットが流されても、隣のお年寄りを守れなかったけれど、自分の命は助かったし、だからあなたは幸せ」と言われると、彼女は大きな違和感を感じたと述べていました。

話を聞きながら私は「生きていくだけで、幸せ」が慰めだと思っている彼女の周囲にいる人たちのほうに共感できてしまう自分の薄っぺらさに嫌気がさしました。私は、日頃、利用者の気持ちを受け止め寄り添うという言葉をよく使いますが、本当にできているか、日々の忙しさや、自分の思い込みの中で疎かになっていないか、彼女の話を聞く中で、考えさせられました。そして、一人ひとりの悲しみは事柄の大きさではなく、一人ひとりの心の中に占める大きさだろうし、他者との比較の中の慰めは、一人ひとりには通用しない。その悲しみは3年経っても癒えることはなく、悲しうに見えないのは、悲しみを隠すことに慣れただけなのだろうと改めて気づかされました。

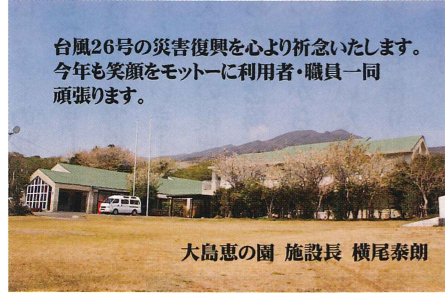
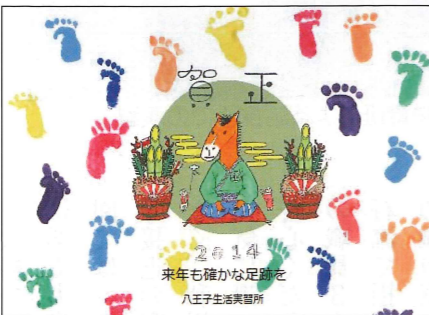
東日本大震災で被災した人たちが一人一人に寄り添う支援がまだまだ必要なのだと改めて感じる事ができたひと時でした。

千代田区立障害者福祉センター
施設長 須永 正



新年明けましておめでとうございませす
本年もよろしくお願ひ申し上げます

社会福祉法人武蔵野会職員一同



被災時の 避難所運営の演習

防災士研修

武蔵野会では第三期中長期経営課題の中で「大震災時の事業継続計画（BCP）推進」を掲げています。これに基づき、昨年度は理事長、本部長、各施設長・管理職ならびにBCP推進担当者が特定非常利活動法人日本防災士機構の認定講習、試験を経て、武蔵野会の職員約50名が「防災士」の資格を取得しました。

今年度は、防災士研修センターと日本防災士機構に講師をお引き受けいただき、被災時の施設での避難所運営の研修・演習を実施しました。避難所の部屋割りやアルファアの炊き出し、ブルーシート上での生活体験など、実際の避難所に近い状態での演習となりました。

研修受講者はそれぞれ「会長」

「総務班」「救護班」「食料・物資班」「施設管理班」「情報班」「被災者管理班」を担当し、避難している方々の様々な要望・苦情を調整していく模擬会議の演習も行い、実際の避難所運営の難しさを体験することができました。この研修の経験がいつか訪れるであろう被災時に活かしていけると考えています。



食料・物資班による給食所での演習

台風26号以降の 伊豆大島の状況

大島恵の園 第2大島恵の園

昨年10月15日から16日にかけて伊豆大島を襲った台風26号による

土石流は元町地区に多くの犠牲者と甚大な被害をもたらしました。行方不明の方の捜索と災害復旧活動が急ピッチで進んでいます。人口約八千人の大島町の復興と災害対策はこれからが正念場だと思われれます。多くの方々からお見舞いの連絡や義援金等をいただきましたこと、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

大島の南部地域、差木地の高台にある大島恵の園、第2大島恵の園では、幸いにも、翌週の台風27号接近の際も含めて大きな被害はなく、利用者の皆さんも職員も皆元気に過ごしています。どうかご安心ください（但し、大島恵の園の職員3人の借家周囲の環境が土石流で損傷、居住困難となったため職員寮に引っ越しました）。

両施設では台風接近に備えて物資や燃料、非常電源の確保等様々な対策を行い、結果的には南部地域では停電・断水等の被害も発生しませんでした。けれども今後、三原山噴火も含めいつ何時全島避難が必要となるような事態が起きるかも知れず、改めて防災・避難計画を再検討しています。

また、台風27号接近時の全島避



小平福祉園

仮設施設が建つこの場所は昔からたくさん柿の木があり、引越した昨年には渋柿がたわわに実りました。地域の方々はこのままでの渋柿を干し柿にしていたそうです。今年も取らせてくださいと声をかけてくれました。

西水元あやめ園

12月に在宅サービスセンターと特養の交流を目的に利用者、職員参加のコンサートを企画しました。サービスセンターの利用者の方たちは棒やハンカチを使った体操を、特養の利用者の方たちは歌を披露しました。職員からは踊り、ピアノ、サックスの合奏や二胡の演奏など楽しい会となりました。

烏山福祉作業所

昨年11月の「さぎようしよ祭」は好天に恵まれ、ボランティアの方の協力のもとに、大勢の来場者においていただき、利用者の方も満足を得ることができました。今年も地域に根ざした活動を続けていきたいと思えます。

さくら学園

12月25日のクリスマス会に家族会からご寄付いただいたため、ケイキバイキングを実施しました。テーブルの上に並んだ華やかなケーキを好きなだけ選べる利用者の

方は大満足の笑顔で楽しんでいました。

さね川福祉作業所

今年度は、利用者自治会がスタートしました。選挙前の役員立候補の選挙演説があり、「エレベーターをつけたい」「施設をきれいにしたい」などの抱負を語ってくれました。

利用者に頼もしさを感じた次第です。今後の活動がたのしみです。

九品仏生活実習所

中町分場が開設されて3年目。地域のより多くの方に分場を知っていただきたいと「分場通信」を始めました。分場の利用者が活動している写真をふんだんに載せて、お届けしています。

武蔵野児童学園

年末には地域の方を招いてクリスマス会、お餅つきに、新年には冬休み外出。二学期の成績はさておき、冬休みで充電満タンの子どもたち。元気いっぱい、寒さを蹴散らしながら、新学期に向かって準備も万端です。

練馬区立光が丘障害者地域生活支援センターすてつぷ

劇団響王（ひびきんぐ）の協力で演劇ワークショップを行いました。利用者と地域のボランティアが協働して、創造し発表する活動です。オリジナル脚本で8回の練習で発表。利用者も観客も大満足の出来栄でした。

難勧告発令時、万が一に備えて両施設にまる二日間災害派遣の陸上自衛隊員10名が待機してくださいました。

目下、全国から災害支援ボランティアが多数来島、大島のために活動されていますが、武蔵野会各施設からも職員が来島、法人の仲間として心強い限りです。

大島両施設でも今後とも可能な限りの復旧復興支援活動を行っていきます。



第2大島恵の園へ到着した自衛隊員

台風27号の際に大島両施設に初めて自衛隊が来園。不安が和らぎました。

「地域共有システム」 の構築

八王子地区

八王子地区では地域貢献等を目的に15の八王子地区目標を設定していますが、その中に、「地域共有システムの構築」があります。八王子市内にはNPO法人立の小さな作業所等が数多くあります。これらの事業所は規模が小さいため、体系的に職員教育を行うことに困難を感じています。そこで、今年度より八王子地区では、従来より各施設で開催している地域拠点・公開セミナーに加えて、八王子市内の福祉施設事業所の従事者が共に学び、育つ場として、八王子地区の地区研修の一部を地域に公開することとしました。

現在、14法人が登録し、自分たちの関心に応じて随時参加しています。八王子地区研修は講師を施設長以下、各役職者が研修テーマ毎に分担して実施していますが、自施設の部下教育だけでなく、地区の職員、さらに市内の他法人の職員参加を得て、より効果の高い、分かりやすい研修教授方法を工夫



共に学び、育つ場として地区研修の一部を地域に公開

しているという機運が高まるなど自他共に相乗効果を上げています。

また、この活動の一環として10月には、市内公民館を会場に障害者虐待防止研修を開催し、地域の福祉関係者・保護者100名を超える参加者があり盛況を博しました。

さらに、地域の中で支援困難事例を話し合う「地域事例検討会」も八王子生活実習所を主催に継続開催され好評を博しています。

今年度は萌芽的活動として開始した「地域共有システム」ですが、来年度以降も継続的活動目標にしてさらに体系的な研修システムを地域互助システムとして構築していきたいと考えています。



滑り台の寄贈

すぎな愛育園きらきら

すぎな愛育園分園「きらきら」に一般社団法人東京馬主協会から滑り台の寄贈をうけました。とても愛らしいカラーで滑り台の下でも遊べるようにテーブルと椅子がセットされています。5月に申請を行い、7月には馬主協会の理事、役員の方の現地視察を経て9月末に設置していただき、10月開



滑り台、後方はログハウスの園舎

設に間に合いました。子どもたちの人気No.1の遊具となっています。

お知らせコーナー

1月

- 8日 法人運営会議
- 17日 北町きらきら亭 (北町福祉作業所)
- 20日 虐待防止セミナー (法人)
- 21~26日 障害者文化展(八王子市身障センター)
- 23~25日 KOMA展・作品展(駒沢生活実習所)
- 29日 第255回理事会・第3回評議員会
- 26日 退園生会 (武蔵野児童学園)

2月

- 1日 葛飾地区支援実践報告会
- 8日 第19回すぎなセミナー (すぎな愛育園)
- 12日 法人運営会議
- 16日 カメラアマラソン参加 (大島地区)
- 19日 施設長研修・施設長会議
- 26日 コンサート (北町福祉作業所)
- 28日 八王子地区支援実践報告会

3月

- 7日 春の集い (駒沢生活実習所)
- 12日 法人運営会議
- 16日 壮行会 (武蔵野児童学園)
- 19日 第256回理事会・第4回評議員会
- 20日 第34回卒園式 (すぎな愛育園)
- さくらの集い (九品仏生活実習所)
- 26~28日 法人新任職員研修・辞令交付式

ショーケース

自主生産品紹介

新商品

世田谷福祉作業所

今回は「甘い物がちよと苦手…」という方にもお買い求め頂けるように甘くないクッキー、おつまみシリーズ、新発売します。

味は全部で3種類です。一つめのオニオンチーズは香ばしいチーズとオニオンの風味が特徴です。二つめのトマトバジルはイタリア食材に代表されるバジルの葉と乾燥トマトを使い焼き上げました。三つめのベーコンペッパーはピリ辛のブラックペッパーがアクセントになっています。



いずれも一袋4枚入り 150円
賞味期限：3週間

八王子福祉作業所

フランス語でチョコレートのお菓子という意味があります。メレンゲとチョコレートを混ぜ合わせたケーキです。日を置くことで、しっとり感が増し、濃厚なチョコレートを味わえます。



ガトーショコラ (まるベリーショコラ)
1ホール 1,000円
1カット 150円

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。
〒193-0931
東京都八王子市台町 1-19-3
電話・FAX 042-626-9772